

67. 物思いに沈む子への接し方

【問い】 中2の長女ですが、近ごろ一人でぼんやり考え込んでいることがあります。心配でなりません。どうしたらよいでしょうか。

【答え】 この年ごろになると、自分の長所、短所、人生いかに生きべきかなど、いろいろな問題を次々と考えるようになります。そして自分を見つめ、自分をためすのです。その結果、失敗し、無力感を味わい、自分の弱さに絶望して物思いに沈んだりします。

また友だちとのトラブルから自分の欠点を見だし、思うように事が運ばないところから「自分はだめな人間なんだ」という劣等感におそわれたり、親や友人に理解してもらえないと、激しい孤独感にさいなまれるという、この年ごろの共通な心の動きを示します。

孤独を求めたり、孤独感にひたることは、この年代の子どもにとって大切なことです。また社会人として独立するためにも非常に重要なことと考えます。「われ思う、故にわれあり」この自覚こそが、大人への第一歩なのです。ただ、注意しなければならないことは、中学生の年ごろでは体こそ大きいが生計経験は乏しく、客観的にもものを見る目がないため、小さな事でも重大視してよくよする例がよく見受けられます。

このようなことを防ぐためにも、ふだんから子どもが問題をもったときに、気軽に相談できる親や兄姉、友だちが子どものまわりにいることが必要となります。子どもから進んで悩みをもちかけるような、機会や場を親としてつくっておくことが、なによりも大切です。